

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	16-314	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Continuous Abstinence During Early Alcohol Treatment is Significantly Associated with Positive Treatment Outcomes, Independent of Duration of Abstinence. アルコール治療早期の断酒継続は断酒期間とは独立して陽性治療転帰に関係する		
執筆者		
Dunn KE ¹ , Harrison JA ² , Leoutsakos JM ² , Han D ² , Strain EC ² .		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2017 Jan;52(1):72-79. doi: 10.1093/alcalc/agw059.		
キーワード		PMID:
アルコール摂取障害、断酒、		27567268
要 旨		
<p>目的： アルコール摂取障害（AUD）の治療早期の断酒継続の効果の予想値や、この効果が現れる可能性がある時点について、今まで評価されていない。本研究では、薬物療法と短期インターベンション療法の併用臨床試験（COMBINE）において、治療初期の断酒がより長期間の断酒を予測させるものであるかどうかを評価する。</p> <p>方法 絶対断酒（N = 954）のゴールを述べた参加者は、早期断酒者と非断酒者に二分されて、早期の連続的断酒の持続時間の関数として、アルコール治療戦略の臨床試験評価で多用される種々の飲酒転帰尺度で比較した。</p> <p>結果 次に挙げるあらゆる項目の結果で有意差が存在した。初期の断酒は、飲酒する日での飲酒量が少ないこと、飲酒日と暴飲日が少ないこと、初めての飲酒日 初めての暴飲日までの期間がより長いことと有意に関係していた。効果は、第1週以内から明白だった。増加の大きさは結果全体で様々であったが、早期の断酒（1-4週）の継続期間が増加するにつれ、すべての効果の大きさは増加していた。</p> <p>結論： これらのデータは、アルコール治療の初期の飲酒が AUD の臨床試験治療の全体を通じて、そして、試験の終了時に飲むことと有意に強く関係しているという証拠を提供する。早期の飲酒は、患者が明らかに治療戦略に応えるかどうかを識別するのに役立つ初期の指標である可能性があり、個別化医療アプローチと整合して患者に合わせて治療を調整するための方法を提供する。</p>		